福岡県西方沖地震で被災した玄界島住民の帰島後の復興評価としまづくりに関する調査

長崎大学工学部　学生会員　○山下龍志　　長崎大学工学部　フェロー　　高橋和雄
長崎大学工学部　正 会 員　　中村聖三　　長崎大学大学院　学生会員　　秋吉大輔

1. はじめに

平成 17 年 3 月 20 日に発生した福岡県西方沖地震により，震源に最も近かった福岡市西区玄界島では斜面地の住宅と宅地が甚大な被害を受けた．そこで，斜面地の一体的な整備が必要と考えた住民の意向を反映した復興計画をもとに，福岡市を事業主体とする小規模住宅地区改良事業を活用した復興事業が導入された．平成 20 年 3 月の市営住宅の完成を最後に避難生活は解消され，現在は島での生活が再開されている．玄界島では帰島後にコミュニティの減少，島の活性化，少子高齢化など多くの問題を抱えているが，住宅再建が優先されたため対応が遅れ問題解決に向けての具体的な動きはない．そこで，本研究では，島での生活が再開された住民を対象に復興事業の評価や玄界島の将来などのアンケート調査を行い，生活環境の改善やしまづくりについて提案する．さらに，平成18年1月，同 12月および平成19年12月に実施したアンケート結果[1)]と比較する．

2. 玄界島住民の復興としまづくりに関するアンケート調査

平成 20 年 12 月に玄界島の新築の戸建て住宅(47 戸)，県営住宅(50 戸)，市営住宅(65 戸)および旧市営住宅(20 戸)，旧戸建て住宅(7 戸)を対象としアンケート調査を行った．アンケート調査票は戸別訪問し，原則として手渡しで配布･回収を行った．不在の世帯には郵送を依頼した．アンケート調査表は 175 部を配布し，136 部回収した(回収率 77.7%)．回答者の属性は**表-1** に示す通りである．

表-1　回答者の属性(N=136)

業種	人数	%
漁業	75	55.1
サービス業	2	1.5
建設･土木業	1	0.7
公務員	8	5.9
無職	26	19.1
その他	13	9.6
無回答	11	8.1

3. アンケート調査結果

3. 1 現在の状況

震災から 4 年近く経ち，島での生活が再開された住民に，「島内の人達の間の付き合いは，地震前と比べて変化したと感じますか」と聞いたところ，**図-1** のような結果を得られた．「地震前よりも，増えたように感じる」の割合は去年まで年々増加傾向にあったが，今年は極端に減っていることがわかる．

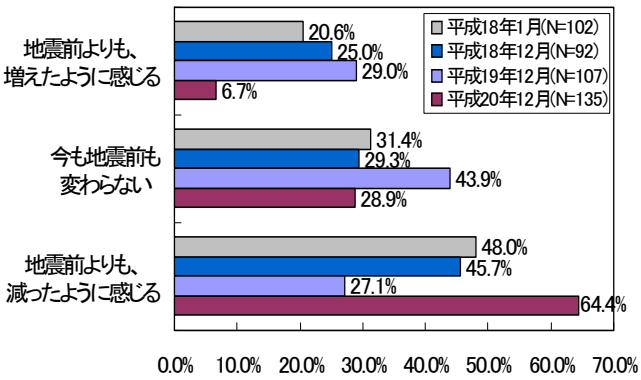

図-1　島内の付き合いの変化

また，「震災前と比べて近所への外出の機会はどのように変化しましたか」と聞いたところ**図-2** のような結果となり，半数以上の人が外出する機会は少なくなったと答えた．さらに「震災以前と同じような生活に戻ったと思いますか」という質問に対して，**図-3** のような結果となり，多くの人が元の生活に戻っていないと答えた．

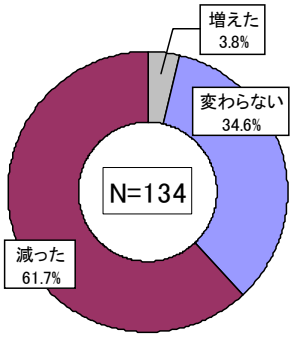

図-2　外出機会の変化

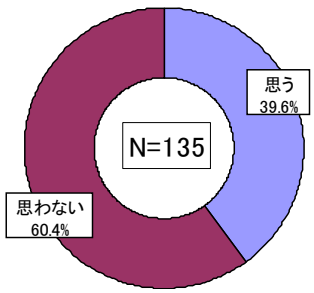

図-3　生活の変化

帰島後は外出の機会が減少し，避難生活中に比べて，住民同士の交流は減っており，住宅は再建されてもコミュニティは回復していないことがわかる．

キーワード：地震，復興，活性化，しまづくり，アンケート調査
連絡先：〒852-8521 長崎市文教町 1-14 長崎大学工学部社会開発工学科　Tel.095-819-2610　Fax.095-819-2627

3.2 復興計画の評価

「玄界島の復興を全体的に見てどう評価しますか」と聞いたところ，**図-4** のようになり，評価は前回より若干ではあるが上がり，復興計画を全体的に見ると満足していることがわかる．また，「復旧・復興事業で新しく完成した施設をどの程度利用していますか」と聞いたところ**表-2** のようになり，どの施設も利用状況は良いとは言えないことがわかる．ここで「もやい車」とは 1 回 500 円で運転免許証を持っていれば誰でも利用できる荷物運搬車で，玄界島自治会で管理されている．

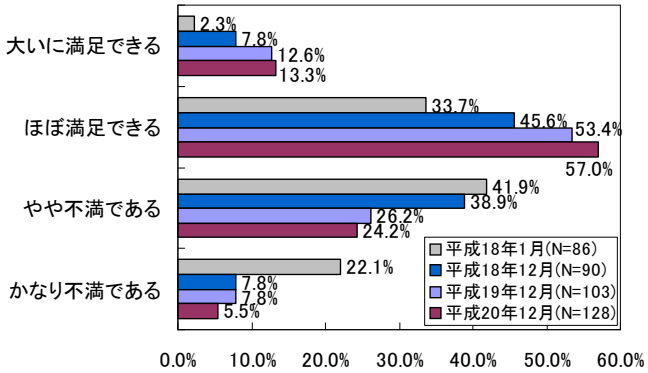

図-4 復興計画の満足度

表-2 新しい施設の利用状況

	よく利用する	ときどき利用する	ほとんど利用しない	利用したことがない
公園(N=122)	5.7%	30.3%	34.4%	29.5%
もやい車(N=120)	0.8%	4.2%	25.0%	70.0%
集会所(N=121)	3.3%	33.1%	38.0%	25.6%
老人いこいの家(N=121)	3.3%	24.8%	18.2%	53.7%

住民は復興計画に対してそれなりの評価をしているものの，震災後できた施設など活用されていないものもあり，公園にトイレを設置するなど，これらをもっと使いやすくする工夫が必要である．うまく活用することによりコミュニティの回復などの問題解決へ役立つことが期待される．

3.3 今後のしまづくり

復興事業もほぼ終わり，「玄界島復興対策検討委員会」に代わり，玄界島のしまづくりに関して議論する「玄界島しまづくり推進協議会」が平成 21 年 1 月に設置された．そこで，「玄界島しまづくり推進協議会で議論してほしい項目は何ですか」と聞いたところ，**図-5** のような結果となった．玄界島には観光客受入れ施設として，震災前に旅館や物販所などがあったが，震災後はなくなり，現在観光客受入れ施設はない状態である．その影響もあり，「観光客の受け入れ施設」が最も多くの賛同を得て，観光振興に関して肯定的であることがわかる．今回の震災で得た知名度を生かすことが観光振興への切り口であるため，今後は震災遺構の保存を行い，災害伝承，防災教育，震災学習の場として活用していくことが求められる．

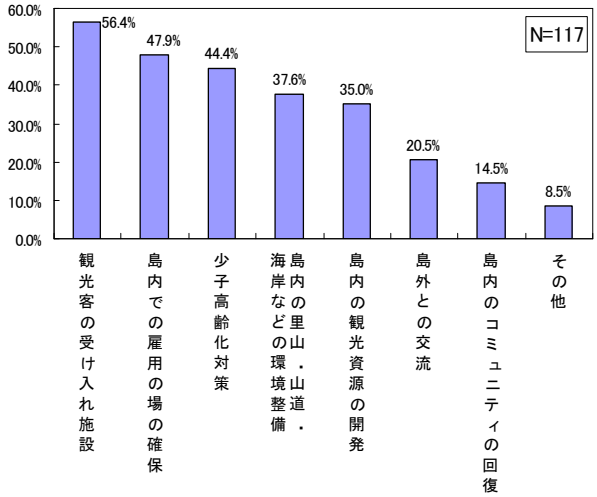

図-5 協議会で議論してほしい項目

4. しまづくり案の提案

玄界島のしまづくりの足掛かりとなることを目的とし，アンケート調査結果や住民との意見交換を基に，しまづくり案を以下に示す．

表-3 しまづくり案

生活環境改善	観光振興	中学校跡地の利用	しまづくりへの活動
● 車道と歩道の分離 ● 浜道にベンチの設置 ● 集落内道路に手摺の設置 ● 県営住宅の防風対策 ● 公園内のトイレの設置 ● 砂浜の再生	● 宿泊施設の設置 ● 飲食店の営業 ● 海産物の加工 ● 散策コースづくり	● 簡易宿泊施設 ● 地震記録や震災跡のパネルなどの展示室 ● 貸しスペース	● 外部との連携 ● ホームページの作成 ● 災害復興誌の発行 ● パンフレットの作成 ● 風力発電の誘致

5. まとめ

回復しつつあると思われたコミュニティはまだ回復していないのが現状で，協議会で議論すべき検討事項が明らかとなり，これからは住民主体でしまづくりを進め，島の活性化を図っていくことが重要である．

参考文献

1)田辺寿彬，高橋和雄，中村聖三，寺島健太：福岡県西方沖地震で被災した玄界島住民の復興としまづくりに関する調査，平成 19 年度土木学会西部支部研究発表会概要集Ⅳ部，pp.693~694，2008.3.